



米子市埋蔵文化財センターたより

第35号

2019年12月



石井要害跡の調査終わる —石井要害跡第4次調査—



石井要害調査地全景（第1次～4次調査地）

今年のお盆明けから始めた石井要害跡の第4次調査を、10月16日に終了しました。

今回の調査では、15世紀後半の腰郭が3カ所確認され、頂上部の平坦面で北東—南西方向にのびる土塁の基底部分を検出しました。土塁上部は削られています。規模は検出範囲で長さ4.5m、幅3.6～5.0m、残存高0.35mを測ります。土塁基底部分は地山を削り出して構築していますが、地山の地形が傾斜している所では、基底部分も盛土をして構築しています。

第2次調査を実施した頂上部の北西側では、北東—南西方向に延びる空堀があり、その空堀の埋まった土の堆積状況から、土塁の存在が想定されていました。今回の土塁基底部分の発見により、頂上部の郭の縁辺部には土塁が巡っていた可能性があります。

発掘調査は、一昨年度から今年度にかけて4次にわたって行い、調査前にはほとんど解かっていなかった石井要害跡の様相が、かなり明らかとなりました。石井要害跡の発掘調査は第4次調査をもって終了します。石井要害跡は、15世紀後半から16世紀中頃にかけて使われた山城ですが、西伯耆では数少ない中世の城館の発掘調査事例として、今後、中世城館の研究を行っていくうえで、大変貴重な成果を得ることができました。（高橋）

発掘調査情報

—石州府10号墳の調査—

石州府10号墳は、日野川右岸の石州府の丘陵地にある直径25mの円墳です。米子市では平成22年度からこの古墳の調査を断続的に行っています。

石州府古墳群は、市内でも屈指の大規模群集墳でしたが、現在では保存された石州府1号墳のほか、移築された古墳が何基か残っているのみです。

10号墳は石室内の石材が盗掘により抜き取られていましたが、羨道部から須恵器の破片が出土しました。石室入口から墳丘前面の墳裾に沿って外護列石が残存していました。外護列石とは、古墳の周囲に石を積み上げたもので、一周すれば頭に巻くハチマキのような外観になります。石室は破壊されており石材は残っていませんでしたが、長さ5m、幅2m程度の規模と推測されることから、石州府古墳群内では上級クラスの有力な被葬者の古墳だったと思われます。この古墳が造られた年代は、出土須恵器から6世紀末頃と推測されますが、その後も追葬が行われ7世紀頃まで使用されていました。そして江戸時代入ってから盗掘されたらしく、石室内からたくさんの陶磁器が出土しています。石州府古墳群では、中世以降に古墳の石室を墓として再利用している事例が多いことから、この10号墳でも同様に石室を墓として再利用していたようです。(佐伯)



石州府10号墳全景

整理室たより

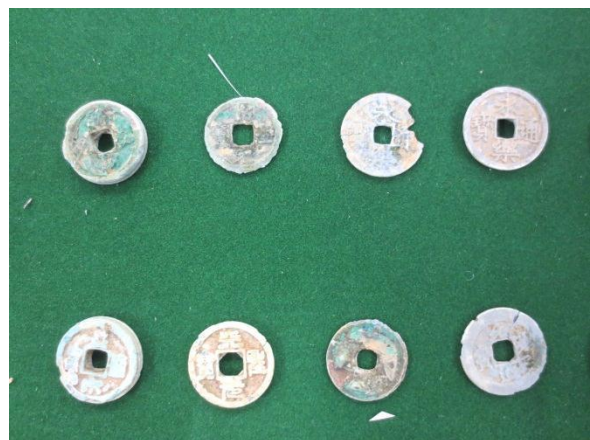
石井要害跡第3・4次調査の整理

整理室では石井要害跡の第3次と第4次の発掘調査の出土品の整理を進めています。

第3・4次調査の対象地は石井要害の二段目の郭で、柱穴が多数検出されており、上の頂部の一段目の郭同様に建物が建っていたことが確認されています。頂部の郭から落下埋没した遺物もあると思われますが、出土したものは二段目の郭の建物に付随する陶磁器などの遺物です。

特に柱穴内からカワラケとともに出土した26枚の宋銭は興味深い遺物で、地鎮のために柱の根元に納められたものと考えられます。(小原)

—第3・4次調査の遺物整理—



出土した宋銭の一部

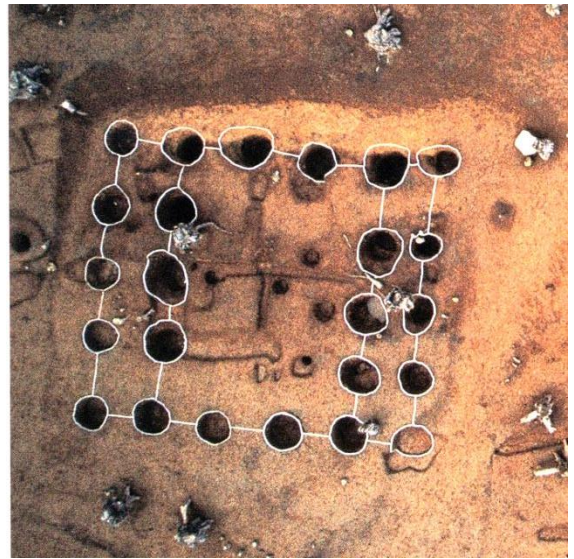
遺跡シリーズ 3 2 妻木晩田遺跡松尾頭地区 (むきばんだいせきまつおがしら)

妻木晩田遺跡の松尾頭地区は、洞ノ原地区の南南西に位置する丘陵です。調査地は1～4区に分けられていますが、二つの丘陵からなり、時代的には弥生時代後期を中心とした村跡で、竪穴建物跡、掘立柱建物跡、段状遺構、溝、土坑、墳墓等の遺構が発見されています。

竪穴建物跡 97 棟、掘立柱建物跡 69 棟、段状遺構 31 基、溝 43 条、貯蔵穴等の土坑 95 基、陥穴など 65 基、墳墓 2 基、古墳 3 基の計 405 基が調査されています。

中でも注目された遺構は、松尾頭 3 区の第 41 掘立柱建物跡です。北側の斜面を L 状に平坦面を造成し桁行 4 間(6.60m)×梁間 4 間(4.86m)で東西に庇持つ総柱の大型の建物跡です。この建物は特別な形態から村の首長の居館と考えられています。

また、大型の竪穴建物跡が 2 棟存在し、玉造関連遺構、破鏡、絵画土器など特殊な遺物が検出されていることから、松尾頭地区は妻木晩田遺跡のなかでも階層的に上位の人達が住んだ村跡と考えられています。3 区から北東へ伸びる丘陵域は未調査で埋没遺構も多いと思われ、何が埋まっているか興味の尽きない地区です。(小原)



第 41 掘立柱建物跡

コラム

明治時代を掘る②

—米子城跡第 33 次調査—

米子城跡第 33 次調査地点は内堀に面した一等地で、江戸時代に重臣の屋敷があった所です。

江戸時代の層では、当時の陶磁器等の遺物とともに礎石建物や掘立柱建物の遺構が発見されています。

この層の上層から明治時代の建物跡、井戸、水路跡、埋甕などが発掘されました。建物跡は建物基礎として長方形の荒島石と不整形な大石を根固めに置かれていました。また、遺物は明治期の陶磁器、ガラス瓶などがあるほか、ダニエル電池容器や牛乳瓶、鉄道荷札など近代の世相を物語るものがあり、近代史の資料として貴重な遺物群と考えられます。(小原)



明治時代の陶磁器

センター・資料館日誌

10月2日(水) 福市考古資料館企画展「古代の米子―奈良・平安時代の米子の遺跡―」を開催した。

出雲市の幡中氏が縄文土器調査で来館された。

10月5日(土) 財団フェスティバル「さむらいをやっつけろ」を湊山球場三の丸広場で開催した。



10月6日(日) 北陸学院大学の小林教授が竈、土製支脚の調査で来館された。

10月19日(土) 「このこのリーフ米子」の子供達が古代体験で福市に来館。

10月27日(日) 第2回考古学講演会「上淀廃寺の歴史入門」 講師 井上玲美氏



11月3日(日) 信金ウオークが福市遺跡を目指して開催され来館された。

11月9日(土) むきばんだボランティアガイドの会の研修 講師 小原館長

11月10日(日) 歴史館連携企画展「西伯耆の中世城館」を歴史館で開催。



11月18日(月)～22日(金) 東大植田教授他が人骨歯石調査で来館された。

11月20日(水) 米子市南部地区公民館研修会が埋文センターの視察と研修で来館された。



12月1日(日) 第3回考古学講演会「古代の郡役所と生産遺跡」
講師 坂本嘉和氏

12月7日(土) 山陰中世考古学研究会が、埋文センターで開催された。

編集後記

大山が紅葉したと思っていたら、初冠雪があり、季節は冬へと足早に移って行きました。

職員や整理員は、今年度の発掘調査の整理に取り組み、報告書作成に忙しく働いています。

発行日 令和元年12月19日

発行者 米子市埋蔵文化財センター

指定管理者 (一財) 米子市文化財団

電話 0859-26-0455

Eメール yonagomaibun@clear.ocn.ne.jp